

学校では、毎日、子ども達のトラブルがたくさん起きています。これは、子どもたちが成長していく上で必要な経験です。成長につなげる為に学校と家庭が右往左往せずにドーンと構えて子ども達と向き合っていければと思っています。そのためにも、学校はどんな考え方で何をしていくのかを紹介していきます。

1. 友だち=仲間 ではない

友達とは、自分の気持ちが決めるものである。個人的な関係で「無償」で「対等」なものである。**仲間とは**、同じ目標に向かって協力する関係で合わない人とも共に行動しなければいけない関係をいう。(気持ちと行動を分けることを『分別』といって生きる上で必要な力のひとつ)

学級活動は、「仲間」であることは必要だけど「友だち」にはならなくてもよい。集団生活とは「友だち」ではなくても「仲間」として協力することが求められる。気の合う人とだけ付き合う生き方は、とても楽だけど限られた世界で生きていくので、社会で生きていくには生きづらいものである。社会性とは、いろいろな考え方を持つ人と「仲間」になって、一緒に仕事をしたり生活を共にしたりする力である。先生たちは、学級内で「仲間」という人間関係を受け入れることが集団生活には必要であることを根気強く伝えます。「仲間」として協力をしていくうちに「友だち」になることはとても多いです。

2. 人は、「違い」や「変化」に弱い

「十人十色」とは、「十人いれば、十人とも考え方が違うのが当たり前」という意味である。人間は、「違い」や「変化」に弱い。なぜなら、先が読めないからである。脳は、自分の命を守ることが一番なので、**答えが分からないものに出会うと「不安」という感情を使って危機意識を高める**。人は、自分を基準に見てものを考えている。だから、趣味や意見が似ている人には安心感を覚えて仲良くなろうとする。反対に自分とは全く違う趣味や意見の人に出会うと、自分が否定されているような気がして不安になる。

3. 自分を大切にすることは？

自分を大切にすることは、自分に甘くするという事ではない。どんな時も自分の言動（言っていること・やっていること）を見つめ返す時間を大切にすることである。

自分に正直に向き合い続ければ、人間関係を作る経験も壊す経験も、人としての「幅」になる。「そうか、こんな人もいるんだ、あんな人もいるんだ、自分にはない考え方だな！吸収したいな！」というように考え方の「幅」が広がっていく。